

## 希少糖と私

松谷化学工業株式会社  
取締役製造生産本部長 山田 晃士

のっけからで恐縮だが、私は高松にはある種よろしくないイメージを持っていた。持っていたと過去形でいうわけだから、今はもうそんなことはない。後述するように至極気に入っている。

よろしくないイメージの原因は学校であった。

私は学校と名のつくところが苦手である。

理由は小学二年生の時の転校にあると思っている。父親の仕事の関係で大阪府の豊中市から高松市内に移り住むことになった。当然小学校も近くに通うことになった。昭和36年の春であった。2年ほど通わせていただいたがこれがなかなか厳しい学校で、豊中当時から通信簿にはたいてい「落ち着きがない」との記載がどこかにはあった私にとって、あまり居心地のいい場所ではなかった。とうとう2年目の終わりには今でいう不登校になるところであった。ちなみに私はそれが故か今でも不登校とか引きこもりとかの心理状態はおぼろげながらもわかる気がする。私の場合は寸前のところで再度の父親の転勤となって、教育的指導は受けずに済んだ。ただそれ以降は何か具体的にこれという理由はないが、何かのトラウマが形成されたのであろう。それこそ大学に至るまで、学校に対して苦手の意識は抜けなかった。

苦手の意識の芽生えたところということで冒頭の一文にたどり着く。

まさかそれから50有余年を経て高松のみならず香川県に足しげく通い、二言目には「レアスウィート」と言い、うどんを賛美し、日が落ちるのを待ちきれずに百閒町界隈をウロウロし、あろうことか高等学校あるいは大学で講演をするに至り「香川は第二の故郷」と臆面もなく語るオッサンになっていようとは・・・

そもそもは希少糖と私のかかわりは、私の勤務する会社「松谷化学工業株式会社」の当時の社長（現会長）の一言

「香川大学に行って希少糖の話を聞いてこいや」  
から始まっている。

当時、当社の研究所所長であった大隈に帯同して香川大学の農学部を訪問した。2003年の桜が散り終わったころではなかったかと記憶する。

希少糖？

いずもりんぐ??

ちてきくらすた???

「なんやそれ？ なんのこっちゃ？」

最初にイズモリングの話聞いたとき、大阪の環状線が頭に浮かんだ。大阪から鶴橋に行くにはどのルートで行けばいいか？ プシコースをグルコースから作るにはどういう糖を経て行けばいいかに似ていると思った。そう思うと理解が進んだ。もっとも理解もそのあたりまでで、フィッシャー図とかの話になると・・・。

ただプシコースの効能の話はわかりやすかったし、これはビジネスになると直感した。

そのころ松谷化学では「難消化性デキストリン」という材料を手掛けていて、ちょうど軌道に乗りかかっていた時期でもあった「難消化性デキストリン」の効能はプシコースのそれとオーバーラップしたところがかかなりあった。つまりは同じマーケットにおいて、それまで培ってきたことがそのまま使えることになる。大きな違いは、「難消化性デキストリン」は甘くないが、プシコースは甘いということであった。多数のユーザーから指摘のあった“「難消化性デキストリン」は甘味料の代替として使ってみたいけれど、そうなる甘味を補う材料がね”・・・にプシコースはぴったりだと思った。既存の甘味料の補完材料として販路は広げられると考えた。甘味料のマーケットで大きな動きが起こる予感がした。

そこまで来て驚いたのは、プシコースの価格を聞いたときである。

グラム数万円（当時 ただし現在でもキログラム数万円）キログラムではなくグラムである。

金より高いじゃないか？

これを売る？

誰が買うんや？

まあ安くなるまでは無理な話やなあ・・・と納得した。

安くさせるためには生産の中核となる酵素の価格の低減化が必要であったが、自然交配では限界もあった。

そんな折、たまたま出席していた小蓑での講演会で、産業技術センターのとある女性が日ごろ食している食品の中に含まれるプシコースの含量の話がされていた（と記憶している）。そのお話の中で「アルカリ異性化」という言葉が耳に入ってきた。

「あれ酵素使わなくてもええんや」

早速小蓑からの帰りの車の中（助手席から）、大隈に電話をした。

「使えるんっちゃう？」

「山田、それは昔、異性化糖を作るときに検討された製法や」

「温故知新かもしれへんなあ」

で、希少糖含有シロップ (RSS: Rare Sugar Sweet) が誕生した。誕生までには香川大学及び当社研究所の多大なる努力が必要であったが、詳細を記するとパテント維持上からも差し障りがあるので控える・・・だいたい山田はしゃべりすぎると社内から怒られている。

ただその縁あって、当社の開発担当者が 2016 年度の芦原科学賞の大賞を受賞する側の一員となれたことは大変喜ばしいことであった。

希少糖含有シロップ (RSS) は、当初はプシコースをシロップで希釈したようなものであるからその効果特性はプシコースに準じるであろうと予測していた。予測はとて面白いほうに裏切られた。理由は RSS にプシコースほどではないが、若干量含まれるアロース等の他の希少糖の効果であろうと考えられている。詳しいところはなお研究中であるが、研究の結果を待たなくてもその恩恵に浴することはできる。

アルカリ異性化法での RSS プロセスが確定された。市場性のある価格で提供できると確信した。さて、次は供給基地である。これについては用地選定から始まり、香川県にたいへんお世話になった。結果として宇多津町の番の州に工場を設置させていただき運びとなった。2012 年のことである。2013 年 7 月工場は生産を開始した。最初の糖液を出荷した時は万感の思いがあった。

それ以来、マリンライナーの高松行では必ず右側の窓側に座る。無論空いていればである。無理に押しつけて座ったりはしない。坂出が近づくとおもむろに車窓に目をやり、したり顔で頷いている。もっとも気が付いてくれる人は残念ながらいない。気が付かれても返って面映ゆいおもいではあろうが。

思い込みで描き始めた画の一部の色が鮮明になってきた。

完成までの道のりはまだまだ遠いが、完成してしまうと一抹の寂しさが残る気がする。

そういう寂しさなら味わってみたい気もする。